

16. シイタケ栽培試験

(1) 原木栽培試験(市販品種栽培比較試験その2)

桃澤邦夫

〔目的〕

前項の(1)原木栽培試験(市販品種栽培比較試験その2)に同じ。

〔方法〕

本試験は(その1)試験と同様の趣旨で実施した。1995(H7)年5月にコナラの原木に接種し、当場の日の出試験林内において管理した。

供試品種は明治製菓(株)の『9K-4』である。区分は表-1に示したとおり、発生操作間隔を短めにするⅠ型と長めにするⅡ型に分け、それぞれオガ菌と駒菌を1対として3対設けた。供試数量は1区分当たり原木20本とした。

Ⅰ、Ⅱ型とも「A及びKA区」(オガ菌及び駒菌)は接種翌年の4月から発生操作を開始した。「B及びKB区」は2回目から「C及びKC区」は3回目からそれぞれ「A及びKA区」と同時に発生操作を行った。子実体の発生調査は発生したすべてについて、大きさ、傘厚及び生重量を計測した。また、乾燥重量はサンプル調査からの係数を掛けて算出した。

〔結果〕

子実体は累計でそれぞれ試料120本に対し、Ⅰ型2012個、Ⅱ型1349個発生した。全発生子実体の平均乾燥歩留はⅠ型13.1%、Ⅱ型12.9%であった。

各区分の発生操作回別の発生量を図-1に示した。図-1では、縦軸に原木1本毎に発生子実体の乾燥重量を1㎡当りに換算し、各区分毎に平均した値を示してある。

Ⅰ型では、「B及びKB区」と「C及びKC区」の最初の発生操作では「B区」に微量の発生があったが、他では皆無であった。また、盛夏前の7月下旬には「C区」の2度目発生操作で突出した発生を示した。

Ⅱ型では、「A及びKA区」が初回に比較的まとまった発生をしたのみであった。また、「B及びKB区」と「C及びKC区」はⅠ型と同様に最初の発生操作では低調であった。秋口ではあるが、「C区」においてはやはり2度目発生操作で突出した発生を示した。

次に図-2及び3において、Ⅰ型とⅡ型のそれぞれの各区分別の累計発生量の変化を示した。図-2のⅠ型では「A区」及び「C区」は発生操作の初めの方で大半を発生しているが、「KC区」は毎回ほぼ一定量を発生している。そして、図-3のⅡ型においても同様な傾向が読み取れる。

表-2は区分別の累計発生量の平均値を検定し、一覧表としたものである。表中には有意差レベルの数値を記した。また、網かけした部分は縦欄の基準区分の方が横欄の検定相手より発生量が多いことを示す。以下発生量が多い方が有利と考え、表にしたがってみていくと、

①Ⅰ型のオガ菌の相互の比較(発生操作開始時期のみの違い)

「1B区」は他区に有意差をもって発生量が少なく、発生操作の開始は早期の4月、または比較的遅めの6~7月の方が有利であったことを示している。

②Ⅰ型のオガ菌とⅠ型駒菌の比較(種菌タイプと発生操作開始時期の違い)

発生操作パターンの同一な「1A区」と「1KA区」ではオガ菌の方が有利であった。

表 - 1 『9K-4』菌を使用した原木栽培試験の概要

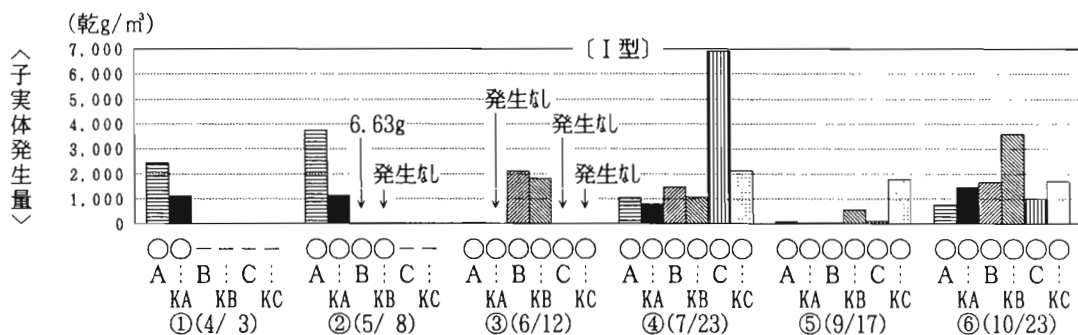
浸水処理			浸水条件		区分			備考	
類型	回数	日 間 隔	時間	水温	冷水機	A, KA	B, KB	C, KC	
I 型	1	4. 3	35	8h	-10℃	- 丸	○	—	—
	2	5. 8		8h	-10℃	- 使用	○	○	—
	3	6. 12	41	8h	-11℃	- 使用	○	○	○
	4	7. 23		8h	-14℃	- 使用	○	○	○
	5	9. 17	36	8h	-10℃	- 使用	○	○	○
	6	10. 23		8h	-10℃	- 使用	○	○	○
II 型	1	4. 3	50	8h	-10℃	- 丸	○	—	—
	2	5. 23		8h	-10℃	- 使用	○	○	—
	3	7. 16	54	8h	-10℃	- 使用	○	○	○
	4	9. 18~19	64	8h	-10℃	- 使用	○	○	○
	5	11. 6	49	8h	-10℃	- 使用	○	○	○

試料数：各区 20 本
 植菌日：1995年 5月 9日
 管理：日の出試験林落葉広葉樹林内
 上欄○印は浸水処理実施

 試験のながれ (I 型)
 (II 型は浸水回毎に試験林 ↔ 発生舎
 をホダ木移動)
 植菌
 試験林
 ↓ A, KA 移動
 発生舎 (1回目)
 ↓
 発生舎 (2回目)
 ↓ A, KA, B, KB 移動
 試験林
 ↓ 全移動
 発生舎 (3, 4回目)
 ↓ 全移動
 試験林
 ↓ 全移動
 発生舎 (5, 6回目)

 試験林 B, KB 移動

 発生舎内
 では
 散水管理
 1回/週



※) ○は浸水処理実施、—は浸水処理不実施、①~⑥、⑤は浸水処理回、(○/○)は浸水日を示す

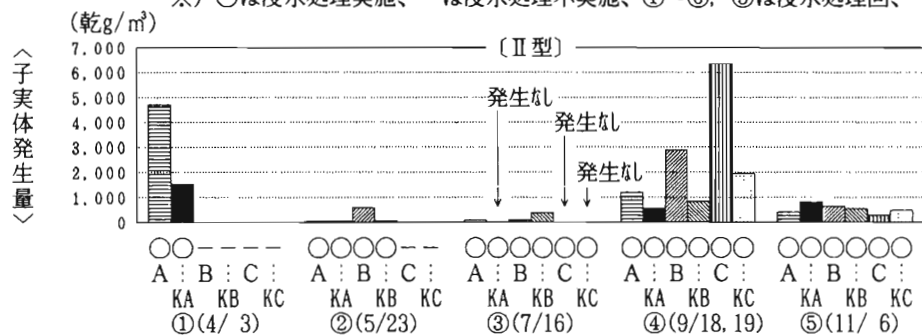
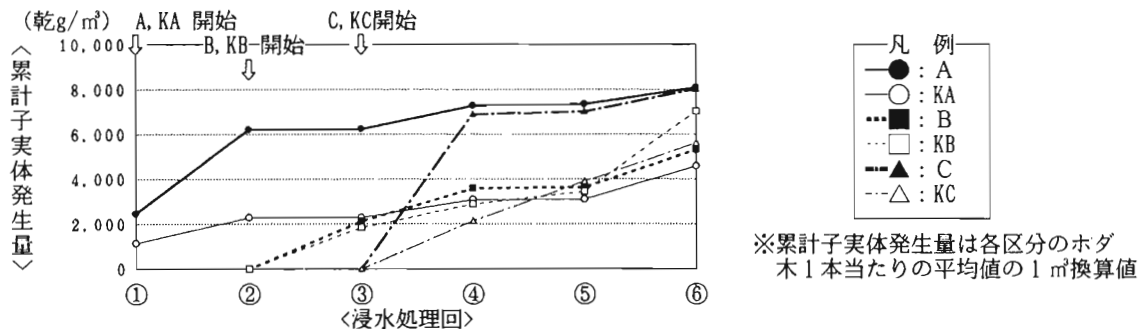


図 - 1 発生操作回毎の平均子実体発生量



※累計子実体発生量は各区分のホダ木 1本当たりの平均値の 1m³換算値

図 - 2 浸水処理間隔 I 型における累計子実体発生量

また、遅めに発生操作を開始したオガ菌の「1C区」は早めの駒菌「1KA区」より有利であった。

③ I型のオガ菌とII型オガ菌の比較（発生操作間隔と発生操作開始時期の違い）

今回の試験ではII型は発生操作開始時期が同じならば回数が少ない。これにもかかわらず、「2B区」を除き差はみられなかった。「2B区」は「1A及び1C区」に対して、ともに1%レベルで発生量が少なくなっており、①と同様に発生操作の開始は早期の4月または比較的遅めの6～7月の方が有利であったことを示している。また、「1A区」対「2A区」のように発生操作時期の早晩が対応する組み合わせはいずれも有意差はなく、操作間隔の影響はみられなかった。

④ I型のオガ菌とII型駒菌の比較（種菌タイプ、発生操作間隔と発生操作開始時期の違い）

「1B区」が「2KA区」との間に有意差がみられなかった他はI型のオガ菌の方が1%レベルで発生量が多く、発生操作間隔が短いI型のオガ菌の方が長いII型の駒菌に比べ有利な傾向がみられた。

⑤ I型の駒菌の相互の比較（発生操作開始時期のみの違い）

発生操作開始時期が異なる「1KA区」、「1KB区」、「1KC区」の相互に有意差はみられず、発生操作開始時期はあまり影響がなかった。

⑥ I型の駒菌とII型オガ菌の比較（種菌タイプ、発生操作間隔と発生操作開始時期の違い）

「1KA区」は早期発生操作開始で操作回数も多かったが、「2C区」に比べ5%レベルで発生量が少なかった。他については有意差はみられなかった。そして、逆の組み合わせである④とは対照的な結果であった。

⑦ I型の駒菌とII型駒菌の比較（発生操作間隔と発生操作開始時期の違い）

II型の「2KA区」はI型の各区と有意差はみられなかったが、他はほぼ有意差がみられ、発生操作間隔が短めの方が回数が増える分、発生量が多くなる傾向がうかがえた。

⑧ II型のオガ菌の相互の比較（発生操作開始時期のみの違い）

この比較では、①のI型と類似の傾向がみられ、発生操作の開始は早期の4月または比較的遅めの6～7月の方が有利であったことを示している。

⑨ II型のオガ菌とII型駒菌の比較（種菌タイプ、発生操作開始時期の違い）

オガ菌の各区が駒菌に比べほぼ有利になっており、発生操作間隔が比較的長くなると種菌タイプが発生操作開始時期よりも発生量の面で影響があると考えられた。

⑩ II型の駒菌の相互の比較（発生操作開始時期のみの違い）

I型の⑤の場合と同様に発生操作開始時期が異なる「2KA区」、「2KB区」、「2KC区」の相互に有意差はみられず、発生操作開始時期はあまり影響がなかった。

以上のように、本試験の発生操作パターンでは、発生量の面からはオガ菌の使用では発生操作の開始が早期の4月または比較的遅めの6～7月の方が有利と考えられた。駒菌の使用では、発生操作間隔が短い方が有利と思われた。また、種菌タイプの比較においては、発生操作間隔を短めの時にはオガ、駒にあまり差はみられないが、発生操作間隔が長めになるとオガ菌の方が有利になるように思われた。

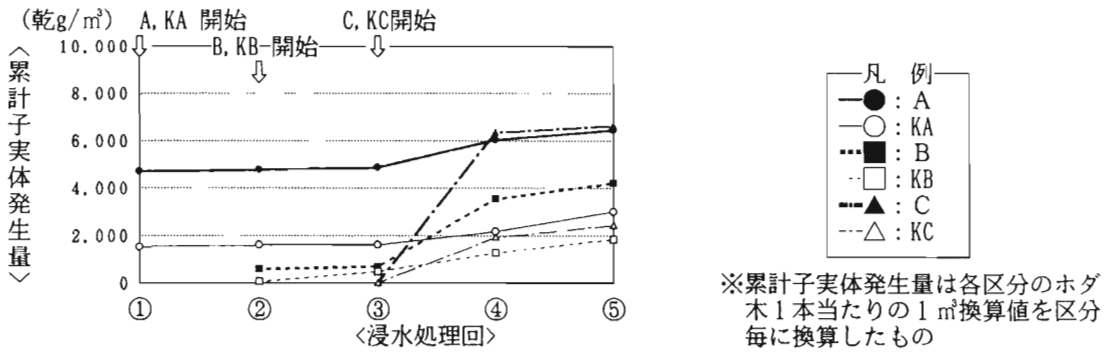


図 - 3 浸水処理間隔Ⅱ型における累計子実体発生量

表 - 2 各区分における平均累計発生量の検定

浸水型		Ⅱ型						Ⅰ型					
種菌型	検定相手	駒菌			オガ菌			駒菌			オガ菌		
		2KC	2KB	2KA	2C	2B	2A	1KC	1KB	1KA	1C	1B	
Ⅰ型	オガ菌	1A (8108.43±3898.31)	1%	1%	1%	なし	1%	なし	なし	なし	1%	なし	5%
		1B (5299.14±2492.37)	1%	1%	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	5%	
		1C (8013.58±4026.46)	1%	1%	1%	なし	1%	なし	なし	なし	5%		
	駒菌	1KA (4579.92±3241.36)	5%	1%	なし	5%	なし	なし	なし	なし			
		1KB (7036.23±9828.90)	なし	5%	なし	なし	なし	なし	なし				
		1KC (5606.28±4887.31)	5%	1%	なし	なし	なし	なし					
Ⅱ型	オガ菌	2A (6453.50±3293.68)	1%	1%	5%	なし	5%						
		2B (4212.28±2162.76)	1%	1%	なし	1%							
		2C (6640.55±2663.69)	1%	1%	5%								
	駒菌	2KA (3003.16±2117.88)	なし	なし									
		2KB (1851.90±1474.93)	なし										
		2KC (2425.62±1599.91)											

※網かけは基準の方が多発生
 ※「1%、5%」は有意差レベル
 「なし」は有意差がなかったことを示す

累計発生量:(平均値±標準偏差)

表 - 3 発生子実体の規格別重量

操作 回数	I 型					
	1 A			1 KA		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	79 \square	g/個	mm	36 \square	g/個	mm
	LL 7%	10.21- 1.19	25.8- 4.56	LL 14%	9.08- 1.08	24.8- 2.71
	L 20%	6.33- 1.01	25.0- 4.74	L 22%	6.24- 1.13	23.1- 3.66
	M 46%	3.60- 1.07	20.8- 3.88	M 39%	3.42- 1.18	18.6- 2.71
	S 18%	1.50- 0.32	16.9- 4.00	S 19%	1.53- 0.44	14.8- 1.85
	SS 9%	0.77- 0.17	13.6- 0.90	SS 6%	1.07- 0.24	11.5- 0.50
2	119 \square			43 \square		
	LL 23%	9.77- 2.37	28.4- 4.30	LL 14%	11.83- 2.79	31.5- 5.06
	L 26%	4.70- 1.01	22.8- 3.68	L 35%	5.55- 1.26	23.1- 2.92
	M 30%	2.70- 0.77	17.9- 3.04	M 28%	3.22- 0.51	17.8- 1.92
	S 15%	1.23- 0.32	14.7- 2.62	S 9%	1.48- 0.22	14.0- 1.87
	SS 6%	0.68- 0.12	12.0- 2.78	SS 14%	0.74- 0.30	12.7- 2.21
3	2 \square			発生せず		
	LL なし	なし - なし	なし - なし			
	L なし	なし - なし	なし - なし			
	M 100%	2.49- 0.29	16.5- 4.50			
	S なし	なし - なし	なし - なし			
	SS なし	なし - なし	なし - なし			
4	48 \square			32 \square		
	LL なし	なし - なし	なし - なし	LL なし	なし - なし	なし - なし
	L なし	なし - なし	なし - なし	L 3%	6.77- 0.00	14.0- 0.00
	M 31%	4.15- 0.99	11.6- 1.31	M 50%	5.34- 1.84	11.9- 1.25
	S 31%	2.27- 0.51	10.1- 0.88	S 25%	2.42- 0.83	10.4- 1.11
	SS 38%	0.97- 0.45	7.9- 1.22	SS 22%	1.62- 0.37	9.1- 0.99
5	2 \square			1 \square		
	LL 50%	16.52- 0.00	30.0- 0.00	LL なし	なし - なし	なし - なし
	L 50%	5.68- 0.00	22.0- 0.00	L 100%	10.61- 0.00	18.0- 0.00
	M なし	なし - なし	なし - なし	M なし	なし - なし	なし - なし
	S なし	なし - なし	なし - なし	S なし	なし - なし	なし - なし
	SS なし	なし - なし	なし - なし	SS なし	なし - なし	なし - なし
6	71 \square			142 \square		
	LL 7%	7.85- 1.76	16.0- 1.79	LL 4%	7.64- 0.95	19.6- 2.42
	L 10%	3.80- 0.53	14.4- 1.40	L 17%	4.50- 1.09	15.4- 3.67
	M 51%	1.77- 0.39	12.9- 1.83	M 51%	2.10- 0.60	12.3- 2.15
	S 25%	1.01- 0.24	10.6- 2.21	S 24%	1.15- 0.22	10.7- 2.52
	SS 7%	0.64- 0.16	13.0- 3.03	SS 4%	0.84- 0.13	9.6- 2.24
<p>・ 子実体の規格：傘が7分開きの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm 未満のもの、M:4~6cm未満のもの、 S:3~4cm 未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・ 規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・ 乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量\Rightarrow 1 A : 11.9% 1 KA : 12.8%</p>						

操 作 回	I 型					
	1 B			1 KB		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
2	2 \square LL なし L なし M なし S 100% SS なし	\square g/個 なし - なし なし - なし なし - なし 1.27- 0.07 なし - なし	\square mm なし - なし なし - なし なし - なし 11.0- 0.00 なし - なし	発生せず		
3	262 \square LL 1% L 3% M 22% S 34% SS 40%	6.38- 0.72 4.16- 0.78 2.21- 0.82 1.18- 0.25 0.52- 0.27	20.0- 2.16 15.7- 1.98 14.3- 2.31 12.2- 1.67 9.3- 2.21	96 \square LL 4% L 9% M 38% S 34% SS 15%	\square g/個 13.73- 4.57 4.71- 2.78 2.46- 0.75 1.35- 0.40 0.52- 0.26	\square mm 20.5- 0.87 18.0- 2.87 15.8- 2.73 14.5- 2.59 10.6- 2.26
4	63 \square LL なし L 10% M 52% S 17% SS 21%	なし - なし 6.55- 2.12 3.81- 1.48 2.25- 0.57 1.00- 0.41	なし - なし 14.2- 1.57 11.9- 1.15 11.1- 1.24 9.1- 1.69	29 \square LL なし L 14% M 48% S 17% SS 21%	なし - なし 7.96- 2.07 4.28- 1.31 2.08- 0.38 1.16- 0.41	なし - なし 15.5- 1.50 13.1- 1.53 10.2- 1.60 8.7- 1.37
5	2 \square LL なし L なし M 50% S 50% SS なし	なし - なし なし - なし 2.84- 0.00 1.50- 0.00 なし - なし	なし - なし なし - なし 14.0 -0.00 12.0- 0.00 なし - なし	14 \square LL なし L 7% M 50% S 29% SS 14%	なし - なし 5.98 0.00 3.03- 0.57 1.65- 0.20 0.28- 0.00	なし - なし 14.0 0.00 12.1- 0.99 13.8- 3.19 8.5- 0.50
6	152 \square LL 1% L 13% M 52% S 28% SS 6%	10.63- 0.00 4.26- 0.93 1.89- 0.52 0.94- 0.27 0.45- 0.17	23.0- 0.00 15.8- 2.24 12.6- 2.45 9.7- 2.34 8.7- 2.00	174 \square LL 5% L 17% M 49% S 23% SS 6%	6.79- 0.57 4.41- 0.91 2.13- 0.58 0.98- 0.24 0.46- 0.12	18.7- 2.54 17.6- 2.34 13.6- 3.21 11.6- 1.85 8.6- 1.82
<p>・子実体の規格：傘が7分開きの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm未満のもの、M:4~6cm未満のもの、 S:3~4cm未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量\Rightarrow 1B:12.3% 1KB:12.9%</p>						

表 - 3 発生子実体の規格別重量(つづき)

操作 回	I 型					
	1 C			1 KC		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
2	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
3	発生せず			発生せず		
4	274 \uparrow			66 \uparrow		
	LL なし	なし - なし	なし - なし	LL 2%	11.16- 0.00	15.0- 0.00
	L 3%	8.90- 1.17	13.8- 1.31	L 4%	8.36- 0.62	16.0- 0.82
	M 54%	4.66- 1.42	12.2- 1.51	M 59%	4.63- 1.30	12.5- 2.22
	S 19%	2.17- 0.48	9.9- 1.34	S 23%	3.28- 2.24	10.7- 1.92
SS 24%	0.99- 0.47	8.0- 1.52	SS 12%	2.01- 1.39	9.3- 2.44	
5	6 \uparrow			105 \uparrow		
	LL なし	なし - なし	なし - なし	LL 2%	8.95- 0.49	23.5- 0.50
	L 83%	5.60- 0.63	15.0- 1.10	L 2%	5.32- 0.84	16.5- 1.50
	M 17%	2.84- 0.00	14.0- 0.00	M 46%	2.92- 0.94	13.6- 2.46
	S なし	なし - なし	なし - なし	S 27%	1.45- 0.26	10.9- 1.41
SS なし	なし - なし	なし - なし	SS 23%	0.86- 0.29	9.1- 1.75	
6	61 \uparrow			128 \uparrow		
	LL 3%	6.94- 0.69	16.0- 2.00	LL 4%	10.22- 0.23	22.4- 3.93
	L 8%	4.50- 0.69	16.4- 1.36	L 9%	4.23- 0.88	16.1- 2.78
	M 61%	2.10- 0.61	13.3- 2.14	M 63%	2.13- 0.56	13.8- 3.65
	S 25%	1.09- 0.25	10.9- 1.89	S 21%	1.16- 0.28	10.9- 1.59
SS 3%	0.42- 0.09	7.5- 1.50	SS 3%	0.62- 0.25	10.3- 3.27	
<p>・子実体の規格：傘が7分開きの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm 未満のもの、M:4~ 6cm未満のもの、 S:3~4cm 未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量\Rightarrow 1 C : 17.7% 1 KC : 13.9%</p>						

操 作 回	Ⅱ 型					
	2 A			2 K A		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	15㇓			58㇓		
	LL 21%	9.27- 2.57	28.8- 4.98	LL 15%	11.14- 2.90	29.0- 6.11
	L 23%	5.47- 0.92	24.9- 7.83	L 26%	6.11- 1.00	22.4- 2.63
	M 35%	3.38- 1.05	21.4- 4.12	M 40%	4.10- 1.25	19.4- 3.49
	S 10%	1.69- 1.26	16.8- 7.39	S 14%	1.78- 0.61	15.4- 3.04
	SS 11%	0.82- 0.46	0.82- 0.46	SS 5%	0.66- 0.15	11.0- 0.82
2	1㇓			2㇓		
	LL100%	8.25- 0.00	21.0- 0.00	LL 50%	8.11- 0.00	21.0- 0.00
	L なし	なし - なし	なし - なし	L 50%	5.05- 0.00	20.0- 0.00
	M なし	なし - なし	なし - なし	M なし	なし - なし	なし - なし
	S なし	なし - なし	なし - なし	S なし	なし - なし	なし - なし
	SS なし	なし - なし	なし - なし	SS なし	なし - なし	なし - なし
3	6㇓			発生せず		
	LL なし	なし - なし	なし - なし			
	L 3%	3.40- 0.00	19.0- 0.00			
	M 22%	3.56- 1.13	14.8- 3.34			
	S 34%	1.82- 0.00	12.0- 0.00			
	SS なし	なし - なし	なし - なし			
4	75㇓			33㇓		
	LL なし	なし - なし	なし - なし	LL なし	なし - なし	なし - なし
	L 5%	6.71- 1.81	16.3- 1.30	L 24%	5.80- 0.87	18.4- 3.08
	M 47%	2.84- 0.87	14.1- 2.08	M 58%	2.76- 0.69	13.0- 2.22
	S 31%	1.40- 0.27	11.3- 1.46	S 15%	1.78- 0.33	12.2- 1.33
	SS 17%	0.90- 0.20	10.6- 2.37	SS 3%	0.84- 0.00	12.0- 0.00
5	16㇓			1㇓		
	LL なし	なし - なし	なし - なし	LL100%	8.17- 0.00	19.0- 0.00
	L 13%	4.84- 1.09	17.0- 0.00	L なし	なし - なし	なし - なし
	M 75%	2.68- 0.30	16.3- 1.31	M なし	なし - なし	なし - なし
	S 12%	1.23- 0.16	11.5- 0.50	S なし	なし - なし	なし - なし
	SS なし	なし - なし	なし - なし	SS なし	なし - なし	なし - なし
<p>・子実体の規格：傘が7分のきの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm 未満のもの、M:4~ 6cm未満のもの、 S:3~4cm 未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量⇒ 2 A : 11.8% 2 KA : 13.0%</p>						

表 - 3 発生子実体の規格別重量(つづき)

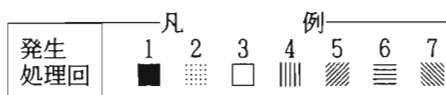
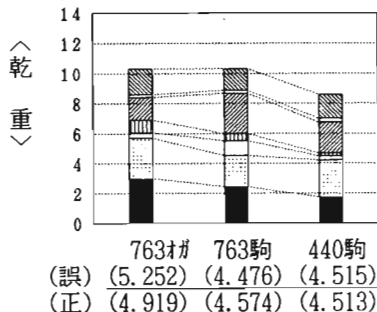
操作 回数	Ⅱ 型					
	2 B			2 K B		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
2	49コ LL 2% L 4% M 47% S 33% SS 14%	「g/個 11.13- 0.00	「mm 29.0- 0.00	9コ LL なし L なし M 22% S 67% SS 11%	「g/個 なし - なし なし - なし 2.20- 0.73 1.60- 0.29 0.80- 0.00	「mm なし - なし なし - なし 13.0- 0.00 12.8- 1.21 0.80- 0.00
3	2コ LL なし L 100% M なし S なし SS なし	なし - なし 6.35- 0.28 なし - なし なし - なし なし - なし	なし - なし 17.5- 3.50 なし - なし なし - なし なし - なし	30コ LL 3% L 3% M 60% S 30% SS 4%	5.72- 0.00 3.30- 0.00 1.65- 0.42 0.90- 0.14 0.44- 0.00	16.0- 0.00 13.0- 0.00 10.3- 1.67 9.7- 0.94 8.0- 0.00
4	177コ LL なし L 5% M 46% S 32% SS 17%	なし - なし 5.27- 0.56 2.80- 0.74 1.50- 0.26 0.86- 0.29	なし - なし 15.6- 1.50 12.6- 1.60 10.6- 1.79 9.2- 1.64	69コ LL なし L 4% M 43% S 28% SS 25%	なし - なし 6.85- 1.01 2.73- 0.65 1.32- 0.38 0.68- 0.28	なし - なし 14.3- 2.49 13.1- 1.92 11.1- 2.07 9.1- 1.35
5	47コ LL なし L 2% M 89% S 9% SS なし	なし - なし 5.00- 0.00 2.52- 0.71 1.10- 0.23 なし - なし	なし - なし 16.0- 0.00 17.4- 9.08 13.5- 1.50 なし - なし	22コ LL なし L 36% M 45% S 5% SS 14%	なし - なし 5.97- 1.00 3.31- 0.90 2.05- 0.00 1.92- 1.55	なし - なし 18.6- 2.06 16.9- 2.47 10.0- 0.00 10.7- 3.09
<p>・子実体の規格：傘が7分のきの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm未満のもの、M:4~6cm未満のもの、 S:3~4cm未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量\Rightarrow 2 B : 13.1% 2 KB : 13.3%</p>						

お詫びと訂正

平成8年度年報<平成9年5月発行>の「29. シイタケ栽培試験 (1)市販品種栽培比較試験」(P.82~P.84)の図版の一部に誤りがありましたので、ここにお詫びして訂正させていただきます。

[P. 82]

(kg/m³)

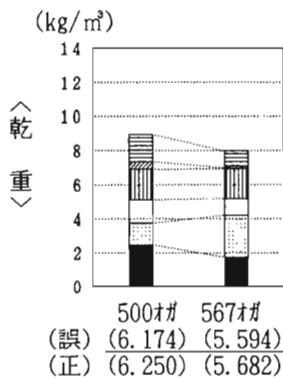


()内数字は累計値の標準偏差

図 - 4 Bグループの平均発生量

操 作 回	Ⅱ 型					
	2 C			2 K C		
	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差	規格 割合	平均乾重 値-標準偏差	平均傘厚 -標準偏差
1	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
2	発生操作実施せず			発生操作実施せず		
3	発生せず			発生せず		
4	345㌔ LL なし L 2% M 65% S 25% SS 8%	g/個 なし - なし 5.73- 0.68 2.65- 0.73 1.32- 0.26 0.79- 0.22	mm なし - なし 15.1- 1.45 12.0- 1.61 10.0- 1.39 8.0- 1.71	159㌔ LL なし L 5% M 36% S 25% SS 34%	g/個 なし - なし 6.56- 0.97 3.10- 0.93 1.40- 0.42 0.73- 0.32	mm なし - なし 20.7- 3.41 14.9- 2.84 11.8- 2.16 9.7- 1.84
5	12㌔ LL なし L 25% M 75% S なし SS なし	なし - なし 5.20- 1.04 2.80- 0.49 なし - なし なし - なし	なし - なし 17.0- 0.82 15.0- 3.53 なし - なし なし - なし	36㌔ LL なし L 17% M 72% S 11% SS なし	なし - なし 5.68- 1.43 3.05- 0.87 1.67- 0.41 なし - なし	なし - なし 21.0- 1.63 15.4- 2.66 13.0- 2.92 なし - なし
<p>・子実体の規格：傘が7分のきの状態での傘直径が、LL:8cmを超えるもの、 L:6~8cm 未満のもの、M:4~6cm未満のもの、 S:3~4cm 未満のもの、SS:3cm未満のもの。</p> <p>・規格割合は個体数割合(%)を表す。</p> <p>・乾燥歩留：Σ乾燥重量/Σ生重量⇒ 2 C : 13.5% 2 K C : 14.0%</p>						

(P. 83)

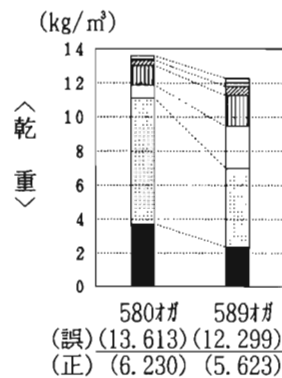


()内数字は累計値の標準偏差

発生 処理回	凡 例					
	1	2	3	4	5	6
	■	▨	□	▩	▧	≡

図 - 6 C グループ
の平均発生量

(P. 84)



()内数字は累計値の標準偏差

発生 処理回	凡 例					
	1	2	3	4	5	6
	■	▨	□	▩	▧	≡

図 - 8 D グループ
の平均発生量